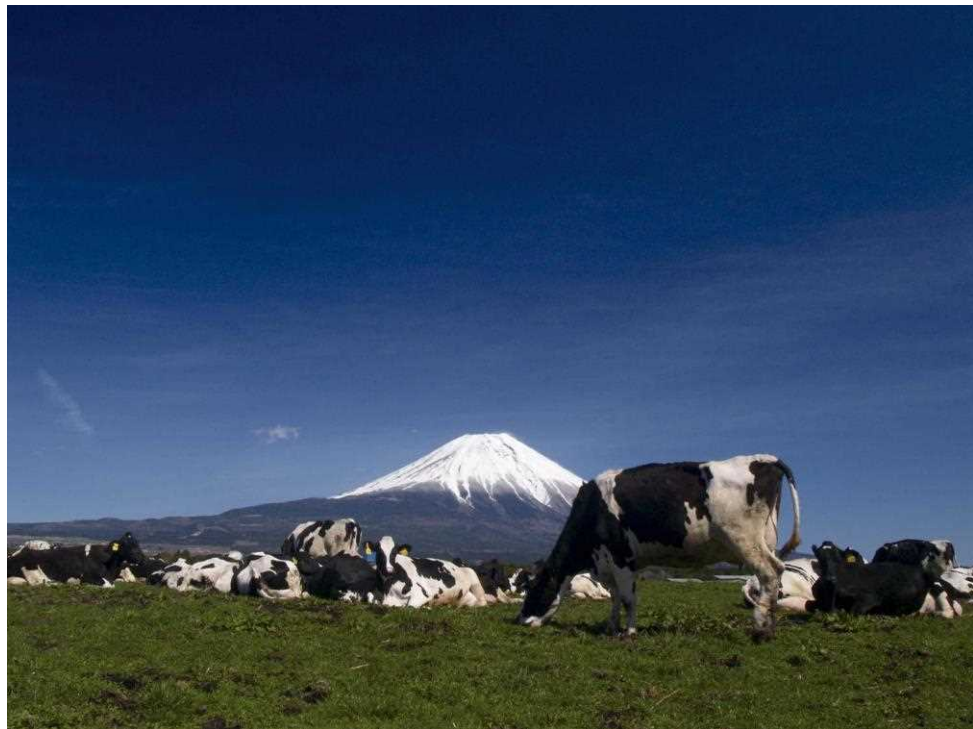


協議体のポイントについて



令和6年12月

富士宮市 保健福祉部
高齢介護支援課 地域包括ケア推進係

1 協議体の体制について

第2層協議体(市内7か所設置)

第2層生活支援コーディネーター
(社会福祉協議会委託7名)

大宮西

芝川

富士根北
富士根南

大宮中
大宮東

富丘
大富士

上野
北山

上井出
白糸

「委員構成」 地区社会福祉協議会委員、区長、
民生委員、地域包括支援センター、
シニアクラブ、地元企業等

第1層協議体(市全体で1つ) (富士宮市地域支えあいプロジェクト)

第1層生活支援コーディネーター
(委託業者1名、市職員1名)

委員14名(所属団体からの推薦)

「委員構成」 富士宮市社会福祉協議会、地区
社会福祉協議会、区長会連合会、民生委員児
童委員協議会、ボランティア連絡会、シニアク
ラブ、シルバー人材センター、各第2層協議体

令和6年度～
各第2層協議体代表者1名が第1層協議体
委員になる体制とした

2 当初の問題点

令和元年度～令和2年度まで

- ・協議体の理念はわかるが、どういう手順で進めたらよいか、何から手をつけたらよいかわからない
- ・とりあえず住民向けアンケートを実施するが、次にやることが見つからず委員に不満がたまる
- ・第2層協議体で、大きな問題に取り組みたいという意見が出ると、地域の支えあいの話が進まない
- ・表面的な困りごとを考えても話がまとまらない



3 改善のポイント

こうした問題について、どうやって取り組んでいったか
今、振り返ったとき重要なポイントは2つありました

①第1層協議体で市全体の課題に取り組むこと

②困っている高齢者を明確にすること

4-1 ポイント① なぜ重要か？その背景

「① 第1層協議体で市全体の課題に取り組むこと」

- ・第2層協議体で委員の思いを受け止め切れなかったことがあった



この地域は高齢者の移動の問題が深刻だから、公共交通を見直すべきじゃないか

地域で検討すべき内容か、市全体で考えるものか整理ができていなかった
また、この問題をどこで協議するか決められた場所がなかった
→この問題について第1層協議体で取り組めるように、市でまずは体制を整えることにしました

4-2 ポイント① 具体的に実施したこと

「① 第1層協議体で市全体の課題に取り組むこと」

ステップ1

- ・第1層生活支援コーディネーター業務の見直し
- ・課題解決につながるように、ワークショップの開催や会議のファシリテーションを行う内容に仕様書を見直し、プロポーザルを実施して事業者を選定した

ステップ2

市全体の課題として挙げられていた「ごみ出し」や「移動支援」に取り組み、モデル地区の選定や課題を整理するためのワークショップを開催した

4-3 第1層協議体の取り組み 例1

「ごみ出し支援」 令和3年度～

- ・モデル地区でニーズ把握のためのワークショップ、ごみを家の前で回収する支援のテスト実施を行う
- ・モデル地区とシルバー人材センターが協力し、有料のごみ出し支援事業を新たに開始した



シルバー人材センター ごみ出し支援 (青木平区)	担い手	シルバー人材センター(青木平区の住民が会員となって実施)
	内容	対象者の家の前に回収ボックスを置き、水曜日の朝、車で家をまわってごみを回収し、まとめて集積場へごみを捨てる
	料金	月880円(週1回で月4～5回)

4-4 第1層協議体の取り組み 例2

「移動支援」 令和4年度～

- ・公共交通担当課と現状を共有し、運転免許証返納者へリアルな困りごとをインタビューするワークショップを開催した
- ・移動の困りごとについて連携会議を開催し各地域の取り組みを共有した
- ・モデル地区によりデマンド型タクシー利用促進を呼びかける取り組みを実施し、3か月で97名に声掛けをし、1年間で該当地区の利用者が8割増となった



4-5 ポイント① 効果 まとめ

「① 第1層協議体で市全体の課題に取り組むこと」

- ・地域で解決が難しい市全体の課題については第1層協議体で協議するという役割を明確にして、第2層協議体が地域の支えあいに集中できるように整理しました

例：移動支援

「公共交通を改善できないか」

→第1層協議体で協議する機会をつくっていきます

「地域の通いの場までの送迎」

→第2層協議体で協議ができるように話を整理します


5-1 ポイント② なぜ重要か？その背景

「② 困っている高齢者を明確にすること」


～委員の意見～



困っていることが具体的に分かると話し合いがしやすい



意外と住民は地域の困りごとを把握しづらい
「困っている？」と聞いても「困っていない」と言われる



漠然と高齢者の困りごとを考えても話がまとまらない

例：高齢者の集まる場所をつくろう

→なぜ必要？今ある場所じゃ足りない？誰がやる？

5-2 具体的に実施したこと

「② 困っている高齢者を明確にすること」

地域包括支援センターが持つ個別の事例を協議体につなげる

ステップ1

- ・協議体の後、社会福祉協議会と市事務局とで月1回改善点や進め方の振り返りをした
- ・問題点や課題を同じ目線で共有し、地域包括支援センター側の視点を伝える

ステップ2

- ・地域包括支援センター、社会福祉協議会、市事務局で打合せをし、地域包括支援センターから個別の事例を聞き取り、協議体で検討するために話の投げかけ方をいっしょに考える

5-3 第2層協議体の取り組み例

「地域の移動支援」 令和6年度～

○高齢者の困りごとについて地域包括支援センターから情報提供を受ける

- ・地元の商店まで坂道を片道30分かけて歩いている高齢者がいる
- ・通いの場まで歩くのが大変になり閉じこもりがちになった高齢者がいる

→地域の社会福祉法人が協力し、地元の商店まで送迎するバスツアーや、通いの場までの送迎を実施した



5-4 ポイント② 効果 まとめ

「② 困っている高齢者を明確にすること」

○地域貢献をしたい社会福祉法人とマッチングができた
・具体的な困りごとが見えたから、協議体で具体的なアイデアが生まれ、支援につながった

○目的が明確になると、議論がブレなくなった
・目的は困りごとを支援すること、やること自体ではない
例：買い物バスツアー 「他の地域でもやるべきでは？」
→移動スーパーの有無など、地域によってニーズは違う
その地域で買い物のニーズが出たら検討しましょう

まとめ 生活支援体制整備事業の流れ

第2層協議体

地域のニーズを把握

地域の支えあいを検討

地域で解決が難しい問題
があがってくる

第1層協議体

市全体の課題に取り組む